

さぬき・東かがわ市 研究のあゆみ

- 1 研究主題 学びを実生活に生かせる国語科学習のあり方
—単元を貫く言語活動の工夫—
- 2 研究活動の概要
 - (1) 4月30日(火) 研究主題設定, 研究組織づくり, 研究計画立案
 - (2) 6月27日(木) 研究授業 東かがわ市立福栄小学校
2年 たいせつな人に「お手紙」作文を書いてつたえよう
「できるようになったよ」
指導者 東かがわ市教育委員会学校教育課主任指導主事
 - (3) 7月24日(水) 夏季研修会 さぬき市立津田小学校
平成25年度四国大会 提案資料検討
ベテラン教員による模擬授業
 - (4) 11月21日(木) 研究授業 さぬき市立鴨部小学校
2年 むかし話を楽しんで読もう
「かさこじぞう」
指導者 さぬき・東かがわ小学校教育研究会国語部会 部会長
 - (5) 1月24日(金) 児童文集「はらっぱ」の編集作業

3 研究内容

- ・ 6月の授業では、大切な人にできるようになったことの「お手紙」作文を書くという言語活動を設定して、読む人に分かりやすい作文を書こうとする意欲を持たせるようにした。児童は、2年生になってできるようになったことを前担任に伝えようと、分かりやすく書くコツを熱心に学び、自分の作文に生かすことができた。授業後には討議を行い、「単元を貫く言語活動の設定について」と「書く内容のメモをふくらませる際の支援」「発問、板書等のよりよい支援のあり方」について活発な討議がなされた。また、指導者より、本時のねらいは何か焦点化して指導することや、導入での教師が行うモデリングの重要性、低学年に思考させるための板書とワークシートの関係性について御指導いただいた。
- ・ 11月の授業は、「かさこじぞう」を想像豊かに読ませることで、昔話のおもしろさにふれさせ、自分から進んで読書を楽しむことのできる児童を育てようという教師の思いが込められた授業であった。児童は、本文から登場人物の行動や会話を書き抜き、吹き出しに気持ちを豊かに想像して書けていた。どの子も集中して取り組み、登場人物あての手紙には、教師がねらったことを入れて書くことができた。授業後には「本時のめあてにせまるための支援のあり方」「児童に豊かに想像させるための手立て」について討議が行われた。指導者からは、児童が受け身にならないよう授業の展開や発問・助言を工夫することや、どのように昔話を読んでいけばよいのかを示す助言を入れることも単元構成を考える上で重要であるということなどの御指導いただいた。

小豆郡 研究のあゆみ

1 研究主題 単元を貫く言語活動を充実させる学習の展開

2 研究活動の概要

- (1) 4月30日(火) 瀧崎小学校：研究組織づくり、研究計画の立案
5月30日(木) 瀧崎小学校：研修Ⅰ：「お話づくり」(書くこと)における
つまずきへの具体的指導について
研修Ⅱ：競書会作品の指導のポイント(書写)
9月24日(火) 苗羽小学校：研究授業 3年
「お話を作って絵本展を開こう～1枚の地図から22このお話づくり～」
指導者 香川県教育センター主任指導主事

3 研究内容

5月の研修Ⅰでは、9月に行う研究授業の単元で予想される児童のつまずき(構成、記述、推敲)について研究部が提案し、その内容ごとにグループに分かれ、具体的指導について話し合いを行った。この研修を通して、教材研究の方法という初歩的な内容から、「お話づくり」単元の学年の系統性や言語活動の在り方についても学ぶことができた。「書くこと」の研修はあまりなされることがなく、いい機会になったという意見もあった。また、9月に行う研究授業に向けての土台づくりとなる研修となった。

研修Ⅱでは、多くの児童が参加する競書会の指導のポイントについて、各学年の教材ごとに具体的に共通理解を図った。部員が研修内容を自校へもち帰り、各学年の担任に知らせることができ、大変有意義な研修となった。

9月の研修では、『お話を作ろう』(東京書籍3年下)の研究授業であった。授業者が5月の研修で話し合ったことを生かしての実践だった。さらに、研究討議を通して郡の研究テーマについて具体的に考えることができた。

指導では、分かりやすい資料をもとに、各学年で押さえる「書くこと」や単元の系統性について、また単元を貫く言語活動やその単元で付けたい力について、お話していただいた。単元の指導事項を見極めて、系統も考えながら精選し指導していくことなどを、授業とつないで具体的にご指導いただいた。言語活動をイメージ化するために、付けたい力を盛り込んだ単元名を工夫することや、一人ひとりの思いや考えを生かすことで存在感をもたせることが、単元を貫く言語活動につながるというご指導もいただいた。「書くこと」の指導では、情報がたくさんありすぎると児童が混乱するので、構成と記述・表現は分けて指導することが大切であると教えていただいた。ここは、先生方も迷っていた点であったので、明快な指針をいただき、日々の実践に生かせる大変実のある研修であった。

高松市 研究のあゆみ

- 1 研究主題 真に生きて働く国語力を育てる国語科授業の創造
～単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくり～

2 研究活動の概要

- (1) 6月13日(木) <第1回研究授業・討議>

北ブロック 4年 中心となる人物の変化を表したCMで物語を紹介しよう
「走れ」

南ブロック 3年 書く人のくふうを考えよう
『ほけんだより』を読みくらべよう」

- (2) 10月31日(木) <第2回研究授業・討議>

北ブロック 1年 おはなしをたのしんでよもう
「サラダでげんき」

1年 おはなしの大すきなところを見つけよう
「おとうとねずみ チロ」

南ブロック 5年 めざせ！第二の宮沢賢治
「注文の多い料理店」「ふしぎな世界へ出かけよう」

5年 「伝えよう、委員会活動」

3 研究内容<各ブロック研究授業より>

北ブロック

第1回

- ・ **単元の工夫**→① 単元を通した言語活動として設定したCM作りは、登場人物の変化を捉えるという学習課題に結びついており、児童が学習への意欲をもち続ける要素となっていた。
② 授業者が前学年の国語教材文「サーカスのライオン」で作ったCMを児童に見せ、学習の見通しをもたせることで、意欲の継続化が図られていた。
③ スモールステップの学習で児童が教材文をしっかり読めていた。
- ・ **1単位時間の工夫**→① 学習の経過を本時の学習に生かすために、掲示は矢印や花丸、短冊などを使って視覚的に工夫されていた。
② ワークシートも気持ちの変化の書きこみやすさにこだわり、同じ形式で児童が学習しやすいように、またこれまでの学習が振り返りやすいようにという点での工夫もなされていた。
③ ペア対話は児童が発表する自信になるというだけでなく、友

達の意見を生かし合う場となるように位置付ける必要がある。

- ④ 場面ごとに表れるのぶよの気持ちの対比にもっと迫ると、児童の読み取りの深さが増すだろう。その際に情報の対比もつなげて学習させていくとよい。

第2回

屋島小

- ・ **単元の工夫**→① 豊かな読書活動につなげる手立てができていた。(授業者が読み聞かせをしたり、チロの本を教室に置いたりなど。)② 大好き発表会につながる言語活動として設定した音読は、コンパクトな言語活動にふさわしかった。③ 読書は、1つ目は深く読む、2つ目は量を読む、その2つの意味がある。両方を学習の中でねらってほしい。④ ワークシートで場面全体を見られるよう、びょうぶ式に工夫していた。
- ・ **1 単位時間の工夫**→① 叙述を読み取るための細かな支援が行き届いていた。具体的には、ペープサート、視覚的にとらえるチョッキやハートの絵、机上の整理の仕方、チロのお面の二つの表情、これまでの学習の掲示物など。② ペア音読でよく聞き合っていた。聞き合う姿勢もよく身につけていた。③ 教師自身も音読の良さを身に付けるために音読を試みる。

屋島東小

- ・ **単元の工夫**→① レシピボックス作りは、学習の意欲を高めるのに有効であった。情報の取り出しとあぶり出しができる活動になっていた。レシピを転移させて使うと子どもの伸びが期待できる。② 学級経営が素晴らしく、単元の計画を掲示し、本時のめあてをはっきりさせ、安心して学習に取り組んでいた。毎時間同じ形式で学ぶ単元計画も良かった。
- ・ **1 単位時間の工夫**→① 段落指導は、自分の生活や考えに生かすことを目指して指導し、子どもたちの気持ちや考えをゆさぶる学習をしたい。② 言葉の理解を図るため、個人で動作化→全体で動作化したり、地球儀を用意したりする工夫がなされた。言葉と意味のつながりが深まるのに、動作化、劇化、メディア化は有効である。また、言葉の意味の違いを吹き出しの大きさの違いで板書したのがよく子どもの理解に結びついていた。

- ③ 登場人物がしたことを読み取り、更にその行為の理由や意味を考えることでより物語全体をとらえることができる。

南ブロック

第1回

・「単元を貫く活動」を、単に第三次に表現活動を位置付けたらいいというものではないと考え、「2つの文章を比べて読むことで、書き手の工夫や効果を見つけること」を設定した。しかし、もう少し明確なゴールが見えた方が、児童が見通しをもって活動できたのではないかと。少しずつ工夫をして変えながら、どんな単元を貫く言語活動が有効か、各自が実践し、積み重ねていくことが必要である。

・上下に比較する2つの文章が並び、見比べやすいワークシートや、視覚支援（顔のマークや前時までの学習の掲示）などが、児童の思考の助けとなった。

・グループ活動では、話し合いの視点をはっきりさせ、何のために交流するのかという目的意識をもたせることで、交互に発表させるだけに終わらないようにしたい。

・児童と教科書教材をどのように出会わせるかを大切にしていきたい。各学年に同様の単元が設定されているので、それぞれの教師が、こんなことをしたらどうだろうと考え、実践していくことがより洗練された学習につながっていく。

第2回

(1) 平井小学校の実践から

・「4年生に委員会活動を紹介するリーフレットを作る」活動を、単元を貫く活動として取り入れた。相手意識が明確であり、委員会活動に慣れてきた児童たちにとっての意欲化に有効であった。また、毎時間ごとに学習した内容を生かしてリーフレットを修正することで、児童の意識の流れがつながりやすくなった。

・教師が書いたモデル（修正点が多くあるもの）と、児童の書いたモデル（教師の意図にあったもの）の比較、観点を漏らさず確認するためのチェックシートの活用などで、推敲のポイントを児童が明確に把握できた。

・付せんを使った推敲の交流であったため、相手の指摘をすることで、自分の文章を見る力も同時に育てられた。

・作文の指導に当たっては、①文章を書く技能 ②内容を豊かにするための技能の2つを身につけさせる指導が必要。そして児童には、表層の力（主題力・取材力・構成力・推敲力）、中層の力（書写力・語彙力・表現力・文法力）、核心となる力（書くことへの意欲関心・感受力・観察力・判断力）の三つの力をつけさせたい。指導の際は、表層の技術的な力に目が行きがちであるが、核心となる力も育てていく必要がある。

(2) 国分寺北部小学校の実践から

・「読む」「書く」の二つの教材を一つにして単元計画をし、ストーリーマップを作ることを「単元を貫く活動」とした。また、単元を通して、学習の中で見つけた宮沢賢治の書き

ぶりの工夫をキーワード化したものを「賢治アイテム」として活用することで、書くことが苦手な児童の助けとなった。

・第二次（読み取り）の段階で、自分が第三次（書く活動）でどんなことを書きたいのかを意識させ、相互に取り入れながら進めていくことで、教材文と児童の書く文章との関連性を高め、自分の文章に、作者の書きぶりのどこを生かすかを明確に書かせられるような指導が必要だ。

・物語を自分で書いていくことで、文学作品を読むときには必ず使われている表現の技術を知り、文章を批判的に読む力もつく。

・単元の初期の段階から、読み取りを生かして物語を書き、それを児童同士で読み合っただけを児童が知っていたので、相談して良いものにしようという意識が高まった。

・読む活動でも、書く活動でもストーリーマップを作成したことで、書いた文章に筋道が通った。

4 夏季研修会より

研修1 低・中・高学年に分かれての演習

グループ演習では、「注文の多い料理店」などを題材に、ストーリーマップを作成するなど、グループ演習を行った。教科書教材を読みながら、並列的に言語活動を行うことが効果的であるという考えのもと、読みの力を付けながら主体的に学ぶことができる活動について検討した。

研修2 香川大学教育学部教授 佐藤明宏先生を講師に招き、講演を行った。

講演内容 「国語教育の近未来～教材研究から単元を貫く言語活動まで～」

○教師自身が「授業を楽しむ」

ただ楽しむということではなく、教材で取り上げられた場所へ実際に訪れてみるなど、教材研究そのものを楽しむということである。その姿勢でいると、教師の言葉の端々に楽しんでいる雰囲気が出てくるし、その姿に子どもたちも引き込まれていくであろう。

また、子どもたちが授業を楽しむことができるためには、教師の緻密な教材分析が欠かせない。佐藤先生からは、教材分析を行う際のポイントや身近なものでも教材になりうることを、そして教材の見方を少し変えるだけで「教材のおもしろさ」はたくさんあるということを教えていただいた。

坂出市・綾歌郡 研究のあゆみ

- 1 研究主題 実生活で生きてはたらく力を育てる国語科の学習
—単元を貫く言語活動を充実させる学習の展開—

国語科の授業が実生活で生きてはたらく力を育てるものとなるためには、単元を貫く言語活動を位置づけることが大切である。さらに、単元の導入において第三次の表現活動を強く意識づけておくとともに、その後の各授業時間を通し、この学習課題を解決していく個々の学習活動を展開していくことで、真に国語科の学習が充実したものになると考える。

2 研究活動の概要

- (1) 4月17日 研究組織作り，研究主題の設定，研究計画立案
(2) 6月28日 研究授業①（坂出小学校）
4年 人物の様子や気持ちを考えながら読もう
—「走れ」—
(3) 10月24日 研究授業②（宇多津小学校）
3年 冒険の物語を書こう

3 研究の内容

(1) 研究授業①より

本単元では、中心となる人物に気を付けて、様子や気持ちを考えながら読むことをねらいとしている。単元を貫く言語活動としては、「お気に入りの人物に着目した感想交流会をしよう」という言語活動を設定した。

本時では、人物ごとの心情曲線を比較しながら、のぶよの気持ちの変化を読み取る活動を取り入れた。自作の心情曲線をもとに、登場人物の気持ちの変化について友達との感じ方の違いを楽しみながら意見交流を行った。

(2) 研究授業②より

本単元では、絵地図をもとに想像を広げ、お話を書くという言語活動を通して、出来事の順序を考え、場面の様子を分かりやすく文章にする力をつけることをねらいとしている。

本時では、想像した場面の様子を分かりやすく文章に書くために、音や様子を表す言葉や会話文、気持ちを表す言葉を取り入れながら文章を書き進めていく活動を取り入れた。児童の作品を友達同士で読みあうことで、友達の表現の工夫やよさを見つけることができ、次時への意欲化を図ることができた。

(3) まとめと今後の課題

どちらの授業も、単元導入時から終末の言語活動の設定がされ、友達と意見を交流する楽しみを分かち合いながら実生活で活用できる力を高められる研究授業となった。今後も、主体的な読みに向かう態度の育成に向けて明確な課題設定を行い、各教材に適した言語活動を設定するための深い教材研究をして、提案性のある研究授業を行っていきたい。

丸亀市 研究のあゆみ

1 研究主題 生きてはたらく力を育てる言語活動の工夫

2 研究活動の概要

- (1) 4月17日 城東小学校 研究組織作り, 研究主題の設定, 年間計画作成
- (2) 6月5日 〈研究授業・討議〉
 - 低学年部会 2年「ちがいははっけん!めざせ!くらべ名人!」
— 『ふろしきは、どんなぬの』 —
 - 高学年部会 6年「物語が強く語りかけてきたことを考えながら読もう」
— 『ばらの谷』 —
- (3) 12月4日 〈研究授業・討議〉
 - 低学年部会 3年 「さんぐんのゆるキャラをしようかいしよう」
— くらべて分かったことを書こう —
 - 高学年部会 4年 「ふるさとを思う心をえがいた本を読もう」
— 『世界一美しいぼくの村』 —

3 研究内容

- ・ 2年「ちがいははっけん!めざせ!くらべ名人!」では、2つの文章を比較する学習を行った。討議では、付けたい力, 系統性を見極めた指導の必要性, 単元構想の工夫, 思考する時間の確保などについて話し合った。
- ・ 6年「物語が強く語りかけてきたことを考えながら読もう」では、文学作品を読み自分の考えをまとめる学習を行った。討議では、叙述に即した読み取りのさせ方, 心情曲線の扱い方, 発問の仕方などについて話し合った。
- ・ 3年「さんぐんのゆるキャラをしようかいしよう」では、自作のゆるキャラと丸亀市のゆるキャラを比べて分かったことを説明する文章を書く学習を行った。討議では、読みの学習と関連付けること, 技ブックの活用によって学習内容を蓄積していくこと, 日常生活での書く活動の取り入れ方などについて話し合った。
- ・ 4年「ふるさとを思う心をえがいた本を読もう」では、最後の一文から感じたことを付箋紙にまとめ, それをKJ法で比較, 整理する活動を通して読みを深める活動を行った。討議では, 単元を貫く言語活動である「読書発表会」と教材文をつなぐ手立て, 考えを深めるための交流活動のあり方について話し合った。

仲多度郡・善通寺市 研究のあゆみ

1 研究主題 単元を貫く言語活動を充実させる学習の展開

2 研究活動の概要

- (1) 4月25日 研究組織作り，研究主題の設定，計画立案
- (2) 6月11日 第1回研究授業 3年「報告する文章を書こう～気になる記号～（光村）」
- (3) 7月24日 香小研国語部会夏季研修会提案発表の検討
2学期教材の教材研究
- (4) 11月5日 第2回研究授業 1年「声に出して読もう～くじらぐも～（光村）」

3 研究内容

- ・ 第1回研究授業（3年）では，記号について集めた取材カードを分類・整理し，類似点や相違点について考え，それをもとに各自が調査報告文の第三段落を書くという授業が提案された。取材カードの分類の仕方が報告文での「調べて分かったこと」となるので，グループで分類の仕方について話し合う際にはワークシートに，分けた理由や気づいたことを書かせたり，構成表をもとに，報告文の下書きの文章を書く時には，教科書に載っている「報告文でよく使う文末表現」が使えるよう助言したりするなど支援されていた。また，児童の実態に合わせ，構成表を書きながら，少しずつ下書きも書き進めていけるよう指導計画が工夫されていた。言語活動を「気になる記号ブックづくり」と設定したことで，自分たちも作りたいという目的意識が芽生え，意欲的に学習に取り組んでいた。

指導者からは，単元を貫く言語活動を充実させるために，「本単元でつきたい力を見極めること」や「付きたい力に合った言語活動を選ぶこと」，「子どもの，大好き，伝えたいという思いを生かすこと」が重要であるということ，また，単元を貫いて言語活動を位置づけることの大切さをご指導いただいた。

- ・ 第2回研究授業（1年）では，くじら雲にとび乗ろうとする子どもたちや，それを応援するくじら雲の様子について，会話文や繰り返しなどの表現を手がかりに，だんだんと気持ちが高まっていくことを読み取り，その気持ちの高まりを音読で表現するという授業が提案された。音読と動作化で学習を進めていくため，言語活動を「音読劇をしよう」と設定し，どのように音読したらいいかを探るために，気持ちを読み取り，考えた気持ちを音読で表すというサイクルを授業の中に取り入れ，想像を広げて読むことにつなげていけるよう工夫されていた。音読はもちろんのこと，様子を捉えるために動作化を授業で適宜取り入れるなど支援されていた。また，雲についてのイメージを豊かにするために，絵本などを並行読書できるよう配慮していたのは，とても効果的であった。

指導者からは，「なぜ，単元を貫く言語活動を位置づけるか」について例をあげて，詳しく説明していただくとともに，単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくりの大切さについてご指導いただいた。

三豊・観音寺市 研究のあゆみ

1 研究主題 「生活に生きてはたらく力を育てる国語科の学習」

－ 単元を貫く言語活動を充実させる学習の展開 －

2 研究活動の概要

- (1) 5月 1日 研究組織作り，研究主題の設定，研究計画の立案
(豊中町農村環境改善センター)
- (2) 6月19日 研究授業 (三豊市立曾保小学校)
<4年> 広告と説明書を読みくらべよう (東京書籍)
－ EM発酵液の説明書を書こう －
- (3) 7月24日 夏季研修会 (三豊市立詫間小学校)
○ 講演 「単元を貫く言語活動のこれから」
○ 朗読劇 「とみはら塾」の公演
演 目 「この子たちの夏」

3 研究の内容

曾保小学校では、「確かな学力をもち、豊かに表現できる子どもの育成」のテーマのもと、次の3点に重点をおき、実践研究を進めている。

- ① テキストを理解・評価しながら読む力を高めるための工夫
- ② テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めるための工夫
- ③ 様々な文章を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実するための工夫

本実践では、「EM発酵液の活用を全校生に広げるために説明書を書く」ことを単元を貫く言語活動とし、相手意識や目的意識を明確にした学習が提案された。「色の使い方」「絵や写真の使い方」「書かれている事柄」「言葉の使い方や説明の仕方」「書かれている事柄の順序やレイアウト」の観点で広告と説明書を読み比べ、ワークシートにまとめる活動を設定することで、目的や意図、相手によって書き表し方が違うことに気付くことができていた。さらに、そこで見つけた工夫を自分が説明書を書く際に生かしたいと、自分の表現活動につなげようとする子どもの姿も見られた。

指導者からは、単元を貫く言語活動を組織する際の大切な事柄として、次の3点を示唆していただいた。

- ① 子どもたちが課題をもち、それを追求していく過程で“役に立った”という実感を伴っている活動があること。
- ② 自分が書こうとしていることとつないで、教材文を読んでいくこと。(書かれている事柄、構成、記述の方法等)
- ③ 自分が書く相手や目的と照らし合わせながら、言葉の使い方や説明の仕方を吟味していくこと。